

第14期 第1回 鳥取市校区審議会 議事録

- 1 日時 平成30年10月15日(月) 10時00分 ～ 12時00分
- 2 会場 鳥取市役所 第2庁舎5階 第1会議室
- 3 出席者 **【委員】**
本名俊正委員(会長)、南部敏委員(副会長)、長谷川誠一委員、中嶋聖委員、
吉澤春樹委員、川口有美子委員、山田康子委員、福山敬委員、牛尾柳一郎委員、
森本早由里委員、民家幸世委員
欠席：上田光徳委員
【教育委員会(事務局)】
山名常裕課長補佐、石上直彦主査兼指導主事、大坪宗臣主任
- 4 会議次第
 - 1 開会
 - 2 委嘱
 - 3 教育長あいさつ
 - 4 委員自己紹介
 - 5 校区審議会についての説明
 - (1) 鳥取市校区審議会条例
 - (2) 鳥取市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則
 - 6 会長・副会長選出
 - 7 会長・副会長あいさつ
 - 8 諮問
 - 9 議事録署名委員の選任 長谷川委員、中嶋委員
 - 10 報告
 - (1) 過去の審議経過について
 - ① 合併前の答申と校区再編の経過について(第1期～第8期)
 - ② 合併後の答申と校区再編の経過について(第9期～第12期)
 - (2) 第13期校区審議会の審議概要について
 - ① 中間まとめについて
 - ② 答申等について
 - ③ 教育を考える会設置状況
 - ④ 次期審議会への申し送り事項について(報告)(平成30年6月)
 - 11 議事
 - (1) 校区審議の今後の進め方について
 - (2) その他
 - 12 その他
 - 13 閉会

5 議事の概要

事務局

おはようございます。ただ今より、第1回鳥取市校区審議会を開催します。

本来ですと、校区審議室長の中村が進行をさせていただくところですが、本日は所用で欠席のため、代理で教育総務課課長補佐の山名が進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

皆様には本日付で第14期鳥取市校区審議会委員として委嘱させていただきます。なお、委嘱状につきましては机の上に置かせていただいております。お1人ずつの交付は省略いたしますのでご了承願います。また、本日ご欠席の委員様につきましては、郵送させていただきたいと思っております。

続きまして、校区審議会の発足にあたり、鳥取市教育長の尾室高志がご挨拶申し上げます。

教育長

みんな、おはようございます。鳥取市教育長の尾室高志と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、お忙しい中、校区審議会にお集まりいただきありがとうございます。また、今回の審議会より新たに5名の皆さんにご参加いただくことになりました。ありがとうございます。

ご承知のように、校区審議会には本市の公立小・中・義務教育学校についての学校のあり方、そして校区のあり方をご審議いただく会でございます。平成16年に、鳥取市は周辺8町村と合併し、市域も広がり、学校の数も増えました。例えば平成19年度には、校区審議会より、岩倉小と宮ノ下小の一部の校区を再編する答申をいただきました。さらには、佐治中学校と用瀬中学校の統合ということもご審議いただきました。そして、福部地域の幼小中一貫校の設置、鹿野学園についてもご審議いただきました。第13期の校区審議会では、江山中学校、神戸小学校、美和小学校の3つの小中学校の小中一貫校の設置について答申をいただいたところであります。

全国的にも、これから少子高齢化を迎える社会において、子どもの数もどんどん減っていくということでございます。多くの課題を抱える中で、学校のあり方についても、様々な議論が必要であると思っております。特に喫緊の課題を抱える校区はもちろんのことですが、このたびは鳥取市のまちづくり、将来の鳥取市にとって学校がどうあるべきか、ということもご審議いただきたいと思っております。

2年間の任期の中で、様々な活発なご意見をいただきながら、ご審議いただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

本日は第1回目の開催となりますので、自己紹介をお願いしたいと思います。次第をめくっていただきますと、委員名簿を掲載しております。名簿掲載順に従いまして、南部委員よりお願いしたいと思います。

[自己紹介（事務局も含む）]

事務局

それでは、校区審議会の説明を事務局よりさせていただきます。

事務局

[説明]

事務局

続きまして、会長・副会長の選出でございます。先ほど説明いたしました条例により、互選により定めるということになっております。委員の皆さまより、選出についてご意見がありましたらよろしく申し上げます。

委員

事務局に一任します。

事務局

ありがとうございます。ただ今、〇〇委員より事務局一任というご提案がございましたが、いかがでしょうか。

[委員賛同]

事務局

ありがとうございます。それでは、事務局案としまして、会長を鳥取大学の名誉教授でいらっしゃる本名委員に第13期に引き続いてお願いしたいと考えます。また、副会長を鳥取市自治連合会会長でいらっしゃる南部委員に新たにお願いしたいと提案したいと思っておりますがいかがでしょうか。

[委員拍手]

事務局

ありがとうございます。それでは、全会一致ということで、会長を本名委員に、副会長を南部委員にお願いするということで決定させていただきますのでよろしく申し上げます。

そうしましたら、本名会長、南部副会長は、会長席、副会長席にご移動ください。

それでは、本名会長様、南部副会長様、改めてご挨拶いただきたいと思います。

会長

みなさん、こんにちは。10月に入って雨が長かったのですが、昨日今日といい秋晴れとなって爽やかな秋、五穀豊穡の秋になったなと感じています。

鳥取市は、市町村合併以降、非常に広い範囲の学校、数多くの児童生徒を有していますが、より良い教育、安全な環境の中で育てていこうとしています。合併以前は、この校区審議会が課題のある時にその都度開催されていたそうですが、合併以降は児童数の減少が予想以上に進んでいるということと、地域との関係も円滑にということと、子どもたちの置かれている状況において広い範囲での課題が多くて、やはり常設で毎月1回くらい開催していかないと課題が解決できないという状況になってきています。第13期に会長をさせていただいたのですが、子どもたちの状況をより良くと思うと、文部省の方針も変わってきていますし、子どもたちが置かれている状況について現場を見ながら考えていくことが必要だと思います。保護者の方とも場合によっては話し合いの機会を設けていただきながら、地域を盛り上げるとともに学校教育をさらに高めていくことが必要になってきていると思います。14期も課題がかなりありますが、皆様方と一つ一つ進めていきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

副会長

私は平成20年に福部町の区長会長に就任いたしました。何をすべきなのかということを考えていたのですが、住民基本台帳を取ってみました。そうしますと、福部町の子どもたちがどんどん減っていくという状況がわかり、40～50人くらい減っていくことに気が付きました。そうすると、当時鳥取市は行政改革ということをしていましたので、必ず学校の統廃合という問題が起こってくると思いました。そうであるならば、教育委員会から合併しなさいと言われてやるということではなく、町民全員が考えて検討をして、こういう学校をつくってくださいということを鳥取市、教育委員会に要望しようということで、そこからどういう学校をつくらうかということ住民で色々と検討していきました。

地域には色々な団体があります。まちづくり協議会や民生委員の団体や社会福祉協議会などがあります。また、合併地域には地域振興会議というような会もあります。たまたま私がそのような団体の長をほとんど兼務していたということもあり、色々な団体に話が早く伝わっていったということがありました。最終的には地域住民の皆さんの賛同を得なければなりませんので、アンケートを行いましたところ、8割近くが小中一貫校に賛成ということになりました。そして、そういうことで進めようということで「福部の教育を考える会」というのを作りまして、31名でスタートしました。そこで色々と検討していきました。

福部には、小学校と中学校、幼稚園と保育園とそれぞれ1校ずつあったのですが、この話が出る2～3年前に保育園と幼稚園を一緒にして同じ建物の中に入りなさいということがあり、結果として幼稚園と保育園が同じ建物の中に入ったわけです。そういう状況の中で、今度は幼小中一貫校をやるから再び分かれて小学校の校舎に来なさいというようなことで、幼稚園の保護者の方から色々ご意見が出まして、そのご了解を得ることに努めることになりました。そういったことを何とか乗り越えていくことができました。一つにまとめるということは、まず地域が賛成すること、学校に通わせている保護者が賛成すること、また先生方にもご理解いただかないとできません。実は最初に学校側に話をしに行ったのですが、当時の校長先生に、校長も教頭も一人になり、職員も減るかもしれないということで反対されました。しかし、将来的なことを考えていかなければいけないというようなお話をしていきました。

そして、平成26年の10月に幼小中一貫校を設置するという校区審議会の答申をいただきました。その後、福部地域幼小中一貫校推進委員会を立ち上げて、平成28年の4月に開校いたしました。施設は小学校を改築して、平成29年の4月から幼稚園児から中学校3年生までが同じ校舎に入っているという状況です。まだ、工事は進んでいますが、今のところ順調にスタートしているように思います。

私は、このように一貫校づくりに携わった経験はありますが、市内の学校の色々な課題を考えていくということは経験がございません。しかし、これまでの経験をこの審議会の中で少しでも生かせればと考えております。また、皆様のご協力を是非いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

事務局

ありがとうございました。

続きまして、教育委員会から諮問をさせていただきたいと思っております。諮問書を教育長の尾室より本名会長にお渡ししますので、前にお進みください。なお、諮問書の内容ですが、資料9ページに掲載しておりますのでご確認をお願いしたいと思います。

教育長

[諮問書を読み上げ、会長へ手渡し]

事務局

教育長の尾室ですが、次の予定が入っておりますので、ここで退席させていただきたいと思えます。

教育長

皆様、よろしく申し上げます。

事務局

ここからは、会長に会議の進行をお願いしたいと思います。会長、よろしく申し上げます。

会長

それでは、最初に日程9の議事録署名委員を選出したいと思います。毎回名簿順に2名ずつ署名委員をお願いしたいと思います。議事録の作成の手順について事務局より少し説明をしていただきたいと思います。

事務局

議事録はホームページで公開しておりました。手順といたしましては、会議終了後に議事録案を委員の皆様へ郵送させていただき、一定の期間を設けてご確認・修正等を行った後、事務局に届けていただき、公開という形を取っておりました。また、次の審議会において、改めて修正後の議事録を配布させていただいております。議事録作成の要領としては、そのような形です。

会長

よろしいでしょうか。

それでは、議事録署名委員を名簿順に長谷川委員と中嶋委員をお願いしたいと思います。次回、ご印鑑をお持ちください。

続いて、報告事項に入ります。初めての委員の方もいらっしゃいますので、これまでの校区審議会の審議経過等を事務局で説明していただき、これまでの議論を把握していただきつつ、第14期の審議会での議論をどのように進めていくか意見交換をさせていただきたいと思えます。

それでは、事務局から説明をお願いしたいと思います。

事務局

[資料説明]

(1) 過去の審議経過について

- ① 合併前の答申と校区再編の経過について (第1期～第8期)
- ② 合併後の答申と校区再編の経過について (第9期～第12期)

(2) 第13期校区審議会の審議概要について

- ① 中間まとめについて
- ② 答申等について

③教育を考える会設置状況

別冊：児童生徒数関係資料

事務局

[資料説明]

(2) 第13期校区審議会の審議概要について

④次期審議会への申し送り事項について（報告）（平成30年6月）

会長

報告事項を一括して説明いただきました。ここままで、何かご質問はございませんか。

委員

資料の23ページの基準の(2)ですが、ここでの通学時間が1時間というのは、片道でしょうか。

事務局

こちらは片道になります。通学距離の基準が小学校4km・中学校6kmということを見ると、徒歩で通学するとかなり早い速度にお感じになれるかもしれませんが、自転車やバスを含めて片道1時間ということで設定されています。

委員

通学距離が長い場合は、徒歩ではなく、そういった交通手段で通うということですね。わかりました。

会長

他には、ございませんか。

先ほどの説明の中にありましたが、若葉台小学校ができた頃までは、児童生徒数が増加しているの、次々と学校をつくっていった状況があります。市町村合併の後には、児童生徒数が減少してきたということで、この審議会はどちらかというと、現状課題の対応が多くなっています。その対応として、小中一貫校や千代南中というのができてきているわけです。別冊の児童生徒数関係の資料を見ていただくとわかりますが、小規模な学校があれば、大規模化が進む学校もあって校舎をどうするかという課題もございまして。色々な課題がある中で、適切な学校のあり方と同時により良い教育をしていくかということと検討を進めていきたいと思っております。

この審議会でもですが、地域の方々を中心にどんな学校をつくりたいか、どんな子どもを育てたいのか、そのためにはどのような教育をしていきたいか考えていただくことも必要です。地域にとっては学校がなくなるというのは、まちの将来のことを考えると難しい問題だと思いますので、地域に学校を残していくという考え方が今までずっと続いてきていたのですが、場合によっては統合によってある地域からは学校がなくなるということもあります。大変難しい問題なのですが、今後も同じような課題が増えていくということと合わせて、全体としてどういった学校をつくって、子どもたちにどのような教育をして、どういう子どもに育てていくのか常に課題になってきています。

一方では、国の基準では、クラス替えができる1学年2クラスくらいあるのが望ましいとされています。クラス替えがないと、いい面もありますが、そうでない面もどうしてもあります。鳥取市の場合では、子どもの数が少なくなってきましたので、少し緩やかな基準になっています。それでも、児童数が少ない学校では、1学年1クラスを編成できなくなり、学校全体で5クラスという小学校もいくつかあるというのが現状です。このあたりをどのように変えていくのかということもありますし、通学時間や通学面の安全ということを見ると、もう少し校区そのものを変更していった方がいいのではないかとといった意見も住民からもありますし、この審議会の中でも考えていかないとはいけません。

現在の教育委員会としての基本的な考え方は、学校と家庭と地域が一体となった学校づくりを推進す

るということです。そのためには、学校のあり方を考える検討組織づくりを各校区で進めていただきながら、地域の方のご意見をまとめていただいて、それを尊重しながら方向性を出していくということが大事です。しかし、場合によっては、そのようなプロセスを待てないということもありますし、大局的に見てこうすべきであるということがこの審議会であれば、多少地域の方と意見が食い違うことがあっても地域の方のご意見を活かしながら早く答申を出していくことも必要ではないかと思えます。

これから第 14 期で審議していくわけですが、非常に課題が多岐にわたっていますので、その都度目の前の課題と、中長期的な視点で考えておきたいと思えます。鳥取市の約 20 年前の年少（0～14 歳）人口と比較すると、現在はその 7 割程度になっており、これから 20 年同じように減っていくとしますと、40 年間の間で、 0.7×0.7 で年少人口が約半分になります。計算上はこうなりますが、鳥取市全体で考えますと、増えていく地域、減っていく地域がありますので、減っていく地域においてはもっと大きく子どもが減っていくということになってくるかと思えます。そのあたりを含めて中長期的な展望と、目の前の早急な課題と併せてこの会では検討していきたいと思えます。どうしても市の方針を少し変えていかないといけない場合もあるかもしれません。そのあたりを含めて、こういうふうに進めていってはいいいのではないかということ、ご意見をお伺いしていきたいと思えますが、よろしいでしょうか。

緊急の課題としては、千代川以西エリア、気高、河原があると思えますし、千代南中も生徒数が少なくなってきました。色々な課題がありますが、一番重要なのは子どもたちがどのように成長していくか、どういう子どもになってほしいか、それをどのような教育で、どのような学校をつくっていくかということです。今までは、教育委員会が、主導して方針を決めていた時代もあったのですが、地域の方々のご協力がなくてはいいい学校は運営できませんので、その点についても併せてご意見をいただければと思えます。緊急の課題と長期的な課題を毎回ご議論いただきたいと考えています。

ご質問等を含めていただいても結構ですので、これからの審議の進め方についてお一人ずつご意見をいただきたいと思えます。

委員

進め方について確認ですが、緊急事案と中長期的な事案は、同時進行で行うのか、それとも先に緊急事案に取り組むのか、そのあたりはいかがでしょうか。

会長

基本的には、毎回、私と事務局が相談して進めていくと思えますが、やはり緊急的な事案を重点的に行っていきたいと考えています。中長期的な事案は、毎回行うというのはなかなか難しいかもしれませんが、緊急の課題を見ていく中でも中長期的な方向性も出てくるかと思えます。まちづくりや人口動態なども含めて、そういったことも視野に入れて検討を進めていけたらいいと思えます。

委員

今回は中長期的な課題と早急な課題を分けてということですが、緊急的な課題を議論しているとそれに付きっきりになって、中長期的な課題をなかなか議論することができなくなってしまうのですが、この任期の間に中長期的な課題をどこまで詰めていくのか青写真を描いておいた方がいいのではないかと思います。例えば、今回はある程度の基準を決定する、その基準をもとに次回にエリアに落とすとしていって 20 年後にはこの範囲に学校を一つ置くといったような議論をしていった方がいいと思えます。13 期でも、城北小学校の課題など、かなり重たい問題ではありますが、なかなかうまく進まないし、色々他の課題が多くて、途中でほぼ議論ができなくなったということがあったので、今回までにここまで決めようという目標をある程度立ててした方がいいのではないかと思います。14 期中長期的な基準のようなものができれば、早急な課題もそことのすり合わせの中で、課題はあるけども、今は保留にしておくという話もあると思えます。先ほど千代南中の話もありましたが、統合で新しい校舎を建ててしまっている場合などは、これから 10 年後に規模が小さくなったので、またそこで閉校にして、新たな学校をつくることになってなかなかそれも財政的にも、一般の住民の方からしても難しいのではないかと思います。そういったこともあると思えますので、この 14 期では中長期的な部分もしっかり議論できればと思えます。

会長

そうですね、やはり10年経過してまた統合ということでは困りますので、中長期的な視点で考えることは重要だと思います。これから人口が減少していくことを考えると、10年では少し短いと思いますので、20年後くらいを考えていく必要があると思います。14期ではある程度目標も立てながら、まとめていきたいと思います。

委員

学校の立場としては、安全安心が一番なのですが、市の基本方針の中にある地域コミュニティを大切にしながら地域と一体となった学校を進めていくという部分もかなり頻繁にあります。PTAや地域とうまく連携しながら助けをもらったり、子育ての責任をきちんと取っていただいたりしながらやっていくということがありますので、そのあたりをどの学校、どの校区でも考えていかなければいけないのだろうと思います。

委員

2年間のスタートとなったときに、早急な課題検討と中長期的な検討について、図や表に表しながら、例えば城北小の八千代橋に関するアンケートをいつまでに実施するなど示しながらできないものかと思っています。気高町の4つの小学校でこの2年間の中で、この時期までに4つの小学校区の教育を考える会を集めて事務局サイドが話をするとか、そういう青写真的なものが2年間のスパンの中で、点々と打てないものかと思っています。ある意味、机上の空論なので、教育を考える会がなかなか動きださないといった時には、テコ入れをしないといけないと思いますが、2年間終わったときのゴールイメージはこうで、この2年間の中で1年間ずつ、上・下に分けたり、4つに分けたりしながら、どういうスケジュールでやっていけそうなのかということ、すくい出せないかと思っています。城北小の千代川以西の問題は、保護者・住民の意向が関わってきていますので、こういうスケジュールのもとで、ある区切りで答申を出していこうということをしていかなければいけないと思います。これは、城北小だけでなく、小規模校の課題についてもですが、2年間の中で青写真を描いて、それを目標に進めていければいいのではないかと思います。

会長

おっしゃられるように、千代川以西については長年の課題で、これまでの審議会でも何度も審議されているのですが、実施ということになるとなかなか難しいということで、解決に至っていません。住民の皆さんのお考えがまとまるのを待つというのも一つですが、少しずつ支援をしながら早くと言いますか時代に遅れない形で、スケジュールを立てて考えていくことも大切であると思います。今の〇〇委員さんのご発言については、2年間を見通して、最初の1年はここまでというように、他の課題も含めて検討していきたいと思います。よろしくお願いします。

委員

次期審議会への申し送り事項を見て、多くの課題を申し送りしていただいたものだなと感じています。したがって、我々の2年間の任期の中で、全て決着をつけるという気持ちでやっていくということが必要ではないかと思っています。小規模校と大規模校とあるわけですが、特に小規模校がどうなるかということがあります。先ほどの話にもありましたが、地域から学校がなくなれば地域が衰退するわけですから、学校を残さないと地域は持たないわけです。どのように魅力ある学校をつくれば、残るのかということ、地域住民が考えていかなければいけないと思います。やはり今の学校というのは、学校の先生と保護者だけでやっていけるというものではないと考えます。旧市内の大規模校と、新市域の小規模校とでは考え方や取り扱いが変わってきます。

会長

やはりエンジンをふかしながら、申し送り事項にある課題については先送りしないように解決に向け

を進めていくのが一番ではないかと思えます。

委員

会長がおっしゃられたように、中長期的な視点でゴールを市民全体が共有するという事は非常に重要ではないかと思えます。私は、都市計画で鳥取市に関わらせていただいておりますが、マスタープランや立地誘導などを考える中で、個人の資産に関わるということがあります。「ここに住むのではなくこちらに住みなさい」ということを突然言われますと、当然住民から反発されます。それに近いようなことが、校区審議会の議論の中ではあると思えます。ただ、個人の短いスパンと市全体の長いスパンを合わせないといけないところがあるので、中長期的に検討する必要があるということをも十分理解いたしました。

戦後間もない人口が 7,000 万人くらいで、そこから 50 年くらいで再びそこまで戻っていかうとしていきます。人口減少ということは、聞く機会があっても皆さんがそんなに実感していないのではないかと思います。やはり自分の子育ての期間くらいに思いは終始してしまうので、形としては 50~60 年後を見通して、「だから 20 年後はこうする方向で我々は考えます」ということを今から示していく方がいいのではないかと思います。

委員

鳥取市のまちづくりの視点から学校を考えていくということは大変重要なことだと思います。

また、議論の中で考えていかなければならないのは、子どもたちにとってどういった教育環境が望ましいのかということです。そういうことを念頭に校区再編を考えていく必要があります。多くの課題がある中で、審議をしようとしても全体というのはなかなか難しいですし、やはり緊急的な課題を中心に最初に進めていかなければならないと思えます。城北小校区の課題については、前期からの引き継ぎということですが、議論はかなりされているのですがなかなか前に進めていない状況ですし、中長期的に考えるということも反対はしませんが、緊急な課題について優先順位をつけて、時間がかかってもしっかり議論できればいいのではないかと考えています。

委員

城北小は、平成 32 年度にはさらに 1 クラス増える予測が出ていますが、今でも一杯の状況であと 1 クラスの部屋をどのように確保するのかという問題が出てきます。他の小規模校も課題はあるのですが、少なくとも現状維持で授業を行うことができると思えます。ただ、城北小については、教室確保という面からも、本当に緊急性が一番高いと思えますので、14 期の間とは言わず 1 年以内に必ず方向性を出さないといけないのではないかと改めて感じました。

会長

13 期では、2 年の間に結論を出そうということでしたが、城北小の現場を見させていただき、教室が足りないという状況も確認したところです。増築も非常に難しいということでしたので、アンケート調査を含めて審議を急ぎたいと思えます。このあたりは、学校とも相談をさせていただきながら、住民の方が納得できる形で結論が出せればと思えます。

委員

喫緊の課題というのは、1~2 年のスパンで結論を出していかなければならないと思ったのですが、中長期的な校区設定にしても喫緊の課題にしても、地域の意向も学校の意向もくみ取りながら課題解決に向けていくということが必要で、学校のあり方を考える検討組織づくりは必須ではないかと思っています。

学校に通わせているあるいはこれから学校に通わせる子を持つ方は、意識を持って考えられるかもしれませんが、そうではない方も含めて、地域としてあり方はどうなのかということを考える場をつくっていかないと、喫緊の課題、将来的な課題を考える上でもベースになる意見というのが出てこないのではないかと思います。全市的に、学校のあり方を考える検討組織が設置されるような働きかけ方が非常に全体の校区のあり方を考える上でも重要ではないかと思えました。

会長

全ての学校区でもそういった検討組織ができてはおりませんが、どちらかというと小規模校で今後学校がなくなってしまうかもしれないということで立ち上がっています。大規模校についてですが、以前に南中の大規模化の課題ということがあり、第12期の校区審議会で答申が出されていますが、その時は、住民の間で何か議論されたことを受けてということではなく、校区審議会の審議のみで決めたという経過がありました。そのあたりをどのようにするのが一番良いのかということですが、住民の方のご意見をお伺いすることも必要だと思いますので、今期の審議会では城北小校区についてはアンケートをする方向で考えていますが、それだけでいいのかという議論も必要だと思いますので検討を早めたいと思います。

委員

たくさん課題がある中で、ほとんどが小規模化に伴う教育効果というのが懸念されている校区が多いのですが、そこにプラスして中心市街地エリアが適正配置に関する項目ということで、該当する基準も4つほどありますので、小規模校ばかりに目がいきますが、校区を適正に配置するという視点に立つと、このエリアも中長期的視点で解決していかないといけない課題ではないかと思えます。喫緊の課題としては、千代川以西の城北小学校の課題については、13期からの引き継ぎもありますし、長年の課題ということもありますので、何かしらの形でこの2年間で導き出せたらと思えます。また、この2年間での目標を捉えながら審議を進めていくということは、とてもよいことだと思います。

会長

皆さんのご意見をお伺いして、申し送り事項を2年間で解決していくということ、それから中長期的な展望で校区のあり方を検討していく必要があるということがありました。

これからさらに人口が減少し、子どもの数も劇的に減ってくるのが予想されます。一方で、市内での城北小の児童はまだ増える可能性があります。マンションが一つ建ちますと、児童生徒数がぐっと増えるということがあります。なかなか読めない部分があるのですが、これから大きく考えれば子どもの数が減っていくので、その中でより良い教育、より良い学校を考えていく必要があるだろうと思えます。学校のあり方が今までと違っておまして、地域の方々の支援をいただきながら今まで以上により良い教育を進めていくというような考え方になってきています。そのような考え方で学校づくりをしていって、学校が地域の様々な文化や教育の中心になり、多くの地域の方がかかわるような仕組みをつくっていかれたらいいと思えます。また、この2年間でスケジュールを考えながら、次回以降進めていきたいと思えます。

全国的に同じような状況ですが、それぞれの町・市・県によって魅力的な学校をつくる動きが出ていますので、場合によってはそういったところを見学したり、情報を得たりしながら、モデルとなるようないい学校を目指しながら委員の皆さんと共に審議を活発にしていけたらと思えます。引き続き審議をお願いする7名の方と、今回新たに審議に加わられる5名の方の新しい考え方も取り入れながら、活発に議論していきたいと思えます。全体的には中長期的なことも含めて、各学校にある喫緊の課題を2年間でできるだけ解決していきたいと思えます。特に、申し送り事項については解決していきたいと思えますし、その間にも新しい課題が出てくるかもしれませんが、それについても検討を進めていきたいと思えます。

13期では江山については結論を出したのですが、地域の意向がなかなか伝わってきにくいということもありまして、私が出かけて行って考える会の方々と話し合いを持ったこともありました。今後、委員の皆さんと地域の方との話し合いというのも場合によっては必要になってくると思えますが、よろしくお願ひします。それから、なるべく現場に出て行ってみたいと考えています。

中長期的な議論と、申し送り事項の解決に向けた議論を、スケジュール感を持って進めていきたいと思えます。

他に、委員の皆さんから何かございますでしょうか。

委員

一つ質問をさせてください。43 ページの選択肢の一例の中に、「小小連携の強化（集合授業）」というのが何回も出てきますが、これは具体的にはどういったものでしょうか。

事務局

例えば3校ありましたら、3校が一つの学校に集まって授業を受けるというものです。

委員

そういったことができるのでしょうか。

委員

常時行うというわけではありません。

会長

季節ごとに行ったり、1学期の中で何回か行ったりということもあります。

委員

神戸小と美和小の間で、一つの義務教育学校になるのにあたり、交流をされているということがあります。

会長

江山地区については、再来年度に義務教育学校の開校を目指していますが、今年度の神戸小の一年生が1名ということで、美和小に定期的に何回か通っていただいているということがあります。それくらい小規模校は深刻な状況にあるということです。神戸小にも視察に伺いましたが、どうしても少人数では、児童同士で十分なコミュニケーションが取りにくいということが現実的にあります。そういうことでは、同学年同士で行ったり来たりするということが必要ではないかということで、この表に入れさせていただきました。

委員

集合授業とありますが、行事などの交流も含めてのことだと思います。

委員

わかりました。

委員

一つ提案ですが、福部未来学園に校区審議会の委員で学校視察をしていただいているかどうかと思います。一貫校として開校して3年になりますので、一度見ていただくと参考になるのではないかと思います。私は外から見っていますが、非常にうまくいっているという感じがしています。

会長

昨年、湖南学園で10周年記念式典があり、それにかかわっておられた〇〇委員にもお世話になり、私と〇〇委員が参加させていただいたのですが、学校運営がこれまでと違って、小中一貫らしさがよくわかりました。小規模校にとってはそういった方法が一つの解決方法だと思いますし、福部未来学園についても、個人的にも強い関心を持っています。福部未来学園の学校運営も非常に魅力的ですので、是非、委員の皆さんと一緒に視察させていただきたいと思います。小規模校の課題とこれからのあり方について検討するときの参考になると思います。義務教育学校のイメージを把握することで、スムーズに議論を進めることもできるかと思っています。そういったことを含めて、現地視察を是非お願いしたいと思います。

委員

カリキュラムを要望する時に、9年間を終えた後に全ての子どもが、日常英会話ができるというくらい英語に力を入れようということで、お願いをいたしました。そういったことで、教育を進めていただいています。かなり英語には力を入れていきますし、新しい教科の「みらい科」を通じてコミュニケーション力の強化に取り組んでいただいております。

会長

その当時に福部から教育委員会に出てきた要望書ですが、とても具体的でわかりやすかったです。特に、幼稚園も含めた珍しい一貫校ということで、地域住民の方々がいかに学校の運営と教育に期待をかけているかということを見させていただきたいと思います。是非、よろしく申し上げます。あまり遅くならないうちに計画できたらと思います。

委員

質問ですが、申し送り事項の表の選択肢の一例のところですが、「複数校区での管理運営部門の統合（キャンパス方式）」というのは、どういったものでしょうか。

事務局

これは12期の校区審議会から一つの選択肢として掲げられたものですが、一つの学校なのですが、大学のように〇年生まではこのキャンパス、●年生からは別のこのキャンパスで生活を送るというようなものです。一つの学校ですが、それぞれの校舎を活用するというものです。ただ、学校長などの管理職は一人にするということになります。このような方法もあり得るのではないかとということで、選択肢の一つとして入っています。

会長

青谷小の統合に際して、最終的に一つの校舎になったのですが、当面の間、2つの校舎で運営されていたということがありました。気高も場合によっては、そういったことがあり得るかもしれません。気高町の小学校4校のうち、他の3校は複式学級が発生していてあまり理想的な状況ではありません。そのあたりをどう解決していくのか、ある段階を踏んで統合していくということも考えられるかもしれません。

他にご質問等はございませんか。

それでは、このあたりで議事は終わりたいと思います。かなり多くの資料がございましたが、またご確認いただければと思います。課題はたくさんありますが、一つ一つ解決に向けて検討をしていきたいと思っています。

次回の日程を調整させていただきたいと思います。

[日程調整]

それでは、12月7日の14時ということでお願いします。

(※後日、12月7日13時～福部未来学園視察、同日15時～市役所で審議会会議に変更。)

事務局より何かございますか。

事務局

次回までに必要な資料等がございましたら、事務局で準備させていただきます。この後でも、後日でも結構ですのでご要望いただけたらと思います。よろしく申し上げます。

会長

本日は全般的なお話をさせていただきました。次回以降、具体的に早急に議論が必要な学校区、また全市的な議論も進めていきたいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。

事務局

慎重なご審議ありがとうございました。それでは、以上を持ちまして、第14期第1回鳥取市校区審議会を終了いたします。

平成 年 月 日

会 長 本 名 俊 正

議事録署名委員

署名委員 長谷川 誠 一

署名委員 中 嶋 聖